

2016年6月1日

馳 浩文部科学大臣殿

一般社団法人大学英語教育学会 (JACET)

会長 寺内 一

初等英語教育の強化のための7つの提言
—初等英語教育に関わる教員に焦点を絞って—

- 提言1. 初等英語教員の資質・能力の明確化と4技能に関わる基準の検討
- 提言2. 複言語・複文化主義につながる異文化間理解能力育成の指標の設定
- 提言3. ALTの増員とICTの活用
- 提言4. 理論と実践力を備えた専門教員の確保
- 提言5. 現職教員を対象とした専門教育課程（博士前期課程・博士後期課程）の創設
- 提言6. 英語教育実習の場の確保と研修の機会の保証
- 提言7. 財政の確保

提言1. 初等英語教員の資質・能力の明確化と4技能に関わる基準の検討

初等英語教員養成にあたっては、英語科教員（初等教育～中等教育）に求められる資質・能力と、小・中・高一貫した4技能に関わる基準を検討することを提言する。英語科教員の資質・能力と専門性に関する基準や、教員免許状取得のための必須要件、教員採用試験合格の判定・評価等を明文化することが必要である。「どのような資質・能力を備えた英語教員を養成するのか」や「4技能の基準は具体的にどの程度のものか」という専門性に関する基準を検討することが急務である。

提言2. 複言語・複文化主義に繋がる異文化間理解能力育成の指標の設定

言語学習者が複言語・複文化主義に繋がる複合的な能力を持ち、コミュニケーションのための言語を自分の第一言語だけに限定しない価値観を初等教育段階から育成することが肝要であり、そのためには、4技能の指標と合せて、「文化相対主義（文化に優劣はないとする普遍思想）」を究極の目標とする「異文化間理解能力」育成の指標を設定することを提言する。

提言3. ALTの増員とICTの活用

質の高いALTを一定数、経年的に確保することを提言する。また児童が主体的に学び、教室外の世界とも繋がっていくためのICTの積極的な活用と開発を提言する。それに関連してアクティブラーニングと統合型授業の研究開発と共に、教科書に準拠した音声・画像の

教材や教具を開発し、教室で使用する設備を整える。そして、学生・教員がそれらを使いこなすことができるような専門科目の創設と十分な研修の機会を与える。

提言 4. 理論と実践力を備えた専門教員の確保

初等英語教員養成においては、「初等英語科教育法」と「初等教科内容論（英語）」等の講義科目を開講し、それらを指導できる専門教員を確保することを提言する。具体的には、高い英語力を有し豊富な教育現場経験を有している教員を採用することである。今後、本学会（JACET）を含め、自治体・教育委員会との連携を積極的に進めることが人材確保の一方方法であろう。

提言 5. 現職教員を対象とした専門教育課程（博士前期課程・博士後期課程）の創設

現職教員を指導する指導者育成の観点から、大学院においてはより高度な理論と実践力を備えた指導者育成のため、現職教員を対象とした専門教育課程（博士前期課程・博士後期課程）を創設することを提言する。

提言 6. 英語教育実習の場の確保と研修の機会の保証

小学校での教育実習の中に英語科目の実習を確保すると共に、提言 4 の教員養成に連動して、現職の小学校教員のための十分な校内及び校外の研修の機会を保証することを提言する。

提言 7. 財政の確保

初等英語教育のカリキュラム及び教材の開発、ALT の増員、ICT の開発と使用、研修への参加等、質の高い教員を確保し、さらには指導者育成のための予算や、初等英語教育に必要な教材や教具を揃えるため、初等英語教育のための予算を獲得、大幅に増強することを提言する。

なお、一般社団法人大学英語教育学会（JACET）は、上記の 7 つの提言を実行可能にするための支援を行う組織体制を整えていることを付言するものである。